

## 「国債の決済期間の短縮化に関する検討ワーキング・グループ」（第23回）議事要旨

【日 時】 平成23年11月11日（金）午後4時～午後4時30分

【場 所】 日本証券業協会 第1会議室

【出席者】 吉田主査ほか各委員

【議 題】 最終報告書(案)について

### 【議事概要】

#### ○ 最終報告書(案)について

- ✓ 吉田主査より、「国債の決済期間の短縮化に関する検討ワーキング・グループ最終報告書（案）＜詳細版＞」（以下「最終報告書」という。）について、前回のワーキング・グループ（以下「WG」という。）からの変更点の説明の後、「国債の決済期間の短縮化に関する検討ワーキング・グループ最終報告書（案）＜要約版＞」及び「資料集」の概要について説明が行われた。委員からは特段の意見はなく了承された。

その後、小松原副主査及び森副主査より、以下のとおりコメントが寄せられた。

- ・ このWGにおける検討では、信託銀行は投資家を代表する形で議論に参画させていただいた。今後、T+1化の実現に向けては、効率化やシステム化など関係者が努力していかなければならない点が多々出てくると思う。引き続き、市場参加者の協力を得ながら、検討を進めていくことが重要と思う。

T+2化については、移行時期が近づくにつれ、出来通知データの記載方法等各社で色々な疑問点が出てくると思う。それらの疑問点を解決し、関係者が足並みを揃えて着実に来年4月のT+2化の移行を迎えることが大切だと思う。

- ・ 決済期間の短縮化は、日本の決済制度改革の大きなメルクマールの一つであったが、アメリカの9.11事件により一旦検討が途絶え、リスク削減を目標としたDVP化やペーパーレス化が先行して実現された。一方、米国やイギリスは決済期間の短縮化が実現されており、日本としては大きい課題が残っている状況であった。今回、決済期間の短縮化が実現できることは喜ばしいことだと思う。

来年4月のT+2化については、実務面での細かい疑問等が出てくると思う。今後は、参加者間で協力しながらそれらの問題を解決し、T+2化を着実に進めていきたいと思う。そしてさらに、2017年以降速やかにT+1化を実現できるようWGでの検討を進めてい

きたいと思う。

最終報告書にもあるように、国際的な市場間競争力の維持・強化という面からも、WGで一つの方向感を出すことができよかったと思う。WG関係者に感謝申し上げるとともに、引き続き検討を進めていきたいと思う。

- ✓ 事務局より、今後のスケジュールについて、以下のとおり説明が行われた。
  - ・ 証券界では、11月15日に開催される「証券戦略会議」に、本件について報告させていただく。また、16日に主要な証券会社向けに説明会を開催する予定である。他の関係業態についても同様に、14日の週に、上部の機関等にそれぞれ御報告いただくことになる。

その後、11月の22日か24日を目途として、「証券受渡・決済制度改革懇談会」及び「証券決済制度改革推進会議」に持回り（書面）で諮る予定である。最終報告書の公表は11月中に行いたいと考えている。
  - ・ 本協会では、「金融・資本市場に係る制度整備について」（平成22年1月、金融庁公表）を踏まえ、工程表を公表しているが、今回の検討結果を踏まえ、この工程表も更新する予定である。この工程表の更新版については、今回の検討結果の反映後、WGメンバーに展開させていただきたいと思う。
  
- ✓ 最後に、吉田主査より、以下のとおりコメントが寄せられた。
  - ・ WG参加のメンバーにおかれては、2年間という長い期間に亘り検討に参加いただき、感謝申し上げます。最終報告書に掲載されるWGの名簿において、名前の横が空白になっている方は、第1回から今回までずっと参加していただいているということになる。また、この名簿にあるように、本当に多くの方が検討に参加されている。ここまで検討を進めることができたのは、WGに参加された方々の御協力の賜物だと思う。
  - ・ 今後は、来年4月のT+2化を確実に仕上げることが大事だと思っている。最終報告書にあるように、市場参加者の準備状況が円滑に進むようWGにおいてフォローアップをしていきたいと思う。
  - ・ その先の目標はT+1化の実現である。現在、国債市場は安定しているが、この状況を次の世代に繋げるためには、国債の流動性や安定性、効率性を確保しながら、我々の世代のうちにT+1化を進めておく必要があると思う。そのためにも、来年度以降もこのWGメンバーで検討を進めていきたいと思うので、今後とも引き続き御協力を賜りたい。

以 上